


優先接種手続き、今からでも間に合います 希望の方は、事前登録(市外在住者)を

7月2日校長会で、教職員向けの新型コロナウイルスのワクチン優先接種が通知されました。この優先接種は、市内、市外在住者問わず、市費、府費教職員、JTE・NET、学校司書、校務員、介助員、施設管理人なども含めた対象となっています。市教委も「接種は本人の意思によって行われるもので、強制ではない」としています。あくまで各自の判断が尊重されます。

教員等ワクチン優先接種手続きについて

- ① 事前手続き** 右のQRコードからアクセスして登録 
○市外在住者は、事前登録が必要。
○在住自治体からの**接種兼番号が必要**。届いていなければ、自治体に問い合わせを。
○登録サイトにアクセスできない場合は、校長を通じて市教委に報告。
※ 枚方市内在住者(住民票所在地)は、事前登録不要です。
- ② 「優先接種通知文書」受け取り**
勤務校から、予約できるようになった「優先接種通知文書」を受け取る。
この文書を受け取り次第、予約の受付が可能になります
- ③ 接種の予約**
「優先接種通知文書」を受け取り次第、「予約システム」か「予約・相談コールセンター」で各自で予約。
※ 市外在住者は「予約・相談コールセンター」のみの予約となります。
- ④ 接種会場**
市内6カ所の集団接種会場(市民会館など)と医療機関があり、ホームページで公表
- ⑤ 接種日、副反応時の服務**
府費教職員＝「職免」、市費教職員＝接種日は「職免」、翌日以降副反応時は「特休」

優先予約開始は未定、事前登録は今からでも、早く手続きを

市外在住者は、校長会の通知では「7月5日(月)までに事前登録をすれば優先予約受付の開始初日から予約可能となります」とされており、7/5を過ぎてしまい、「間に合わなかった」「自分の住んでいるところで受ければいいのか」とあきらめたり、接種が先になってもいいかと思ってしまう声も職場から聞かれます。

全教(全日本教職員組合)の枚方教職員組合のニュースです

しかし、ワクチン不足の混乱で、優先予約の開始日程はまだ知らされてはいませんが、準備でき次第、予約開始が可能になります。

また、予約開始日程が未定のため、「7/5(月)までに」の期限も先延ばしになっている状況で、今からでも予約開始に間に合うので、できるだけ早く事前登録することが必要です。(開始日に間に合わなくても、事前登録をすれば、順次予約は可能です)

夏休みに間に合う優先接種に！各自の手続きも重要

教職員の優先接種については、当初、9月開始とされていたものを、8月開始、さらにできるだけ早期にと、市と市教委は取り組みを進めてきています。

ただし、実際には教職員各自の事前登録などの手続きが必要ですが、多忙化の中で、後回しになっている状況も少なくないようです。

オリンピック開催を控え、東京の感染者数急増・緊急事態宣言発出や大阪の増加傾向など「第5波」はきわめて現実的になっています。

まだ予約開始日程は未定ですが、優先接種のできるだけ早い実施が望まれます。

教員免許更新制廃止へ!! 職場からの署名、声を上げた事が大きな力に

7月10日(土)の新聞各紙で、文科省は教員免許更新制の廃止の方針を固め、検討の場である中教審に計画を示し、来年1月からの国会で法改正をめざすとする報道がだされました。

もとは「存続、見直し」、制度の強化から検討はじまる

萩生田文科大臣はもともと「負担軽減の見直し」として、検討を始めました。政府の与党や中教審の委員会の中でも、「免許更新講習は有益」「校長から廃止を求める声はない」「更新講習は継続すべき」などの意見も根強くありました。

さらには「国家資格にすべき」「研修履歴を蓄積してポイント制にすべき」などより制度の拘束力を強める意見さえ出ていました。

しかし、中教審の委員の中からも、「負担が大きい」「免許失効で現場が混乱」「教員不足の要因にもなっている」など「廃止」を求める声が次々出され、委員会のまとめ役の加治佐哲也・兵庫教育大学長からも「廃止を検討すべき」との声が出され、廃止を含めた検討になってきていました。

全教の署名を始め、現場の声が自体を動かす

現場からも、廃止を求める強い声が出され、全教・大教組と枚方教組も広く呼びかけた「教員免許更新制の廃止を求める署名」にも大きな反響が寄せられ、次々と署名に賛同が広がり、文科省にとどけられました。

6月には千葉県知事が文科省に「速やかな廃止」を強く要請するなど、自治体にとっても、緊急の課題になっていることが浮き彫りになっています。

7月には文科省による全国の教員アンケートでも「廃止」を求める声が多数寄せられ、萩生田文科大臣も「ミスマッチが浮き彫りになった」「スピード感を持って制度改革を進める」としていました。

しかし、政府の与党内には、「制度の存続」を求める声も根強く法案提出、成立まで予断を許しません、引き続き現場からの声を上げて、粘り強く力を合わせて取り組みましょう。

中北小・高陵小学校統合 3年かけて統合が、たった1年で統合！

時間をかけた、理解や合意、条件作りこそ

今年3月27日の、枚方市教育委員会会議で中宮北小と高陵小の学校統合を決めた「実施プラン」が決定されました。

これは2015年12月に学校規模等適正化審議会の答申として、市内20小中学校の学校統合と、施設一体の小中一貫校の計画がだされました。

この計画は小規模校の統合をターゲットにしたもので、大規模校解消の具体的な方針がなく、保護者から強い批判や疑問が広がり、結果的に、計画全体は棚上げになったものの、中宮北小と高陵小の統合には取り組んでいくとされてきました。

話し合いを続けるなかで、突然の統合スケジュール

当該校区の保護者、住民は特に疑問や批判も強い中で、保護者住民が疑問に十分応えることを求めて、市教委が説明会や住民との話し合いを進めてきました。

しかし、市教委は昨年12月の住民説明会で、令和4年4月の学校統合のスケジュールを打ち出しました。地域のコミュニティー、PTA、住民代表とも言っての理解を得られたとしてスケジュールの公表を行ったとしていますが、多くの保護者や住民の中には、突然のスケジュール公表に疑問や強い戸惑いを感じる方も少なくない状態でした。

統合の「実施プラン」によって、1年で両行は統合され、来年4月には全学年が一緒になり、高陵小はいったん中北小に移動して学校生活を始めます、高陵小跡地に新しい学校を立て直した後に再度移動することになります。

協議会で3年かけるはずが、たった1年で統合

学校統合は子ども、保護者、住民にとって、極めて負担が大きく、重大な環境の変更を強いるものです。もともと、市教委の基本方針で、子ども、保護者、住民の負担を考慮して「統合の協議会設置から3年後に統合」としていました。

かつて、突然統廃合が発表され、住民、保護者の強い反対を押しきって実施された村野中、村野小、北牧野小の統廃合では、統合後に、学校が落ち着かずあれが広がる、PTAや住民の間でのギクシヤクした関係が長く続いたと言われます。

この事を踏まえて、市教委も統合協議会で3年かけて、という方針を示していたはずですが、

1年の期限を設けずに、時間をかけて、子どもや保護者、住民の十分な準備こそ必要です。

少人数学級拡大のための、大規模校解消、学校規模適正化の見直しこそ

国は、小学校全学年の35人学級計画を決定しています。さらに中学校にも広げるように、準備や検討を進めています。

いっぽう、枚方市教委は少人数学級拡大の要求に対して、「教室が不足する」ことを理由の一つに挙げて、実施に否定的な態度をとってきました。

少人数学級の拡大は、子どもにとっても、学校教育全体にとっても、最優先課題です。これを可能にするためにも、大規模校解消、少人数学級拡大を可能にする学校規模の適正化の計画こそ、早急に取り組むべきです。

組合や枚方教組のことを聞いてみませんか？

7月30日(金)16:30~18:00 組合事務所

「組合にあなたの声を聞かせてください」

毎日の仕事の中で、

疑問に思うことや、おかしくない？と思っていること。

仕事のことでうまくいかない悩み

権利や給与など、大事だけれどもよくわかっていないこと

健康保険、年金、教育費など先の暮らしのことも心配

組合ってどんなところ、何するところ？



皆さんの声を聞かせてもらいながら、悩みや疑問について、いろんな話を聞くことができます。

組合や枚方教組のことについても、率直に聞いてもらうことができます。

ぜひ、職場の組合員の方と一緒に、気軽に参加してください。

何時からでも、途中参加OKです。

お菓子や、飲み物も用意しています。



記念講演 2021 北河内ブロック全体会

文字の獲得は 光の獲得でした

～生きることと学ぶこと～

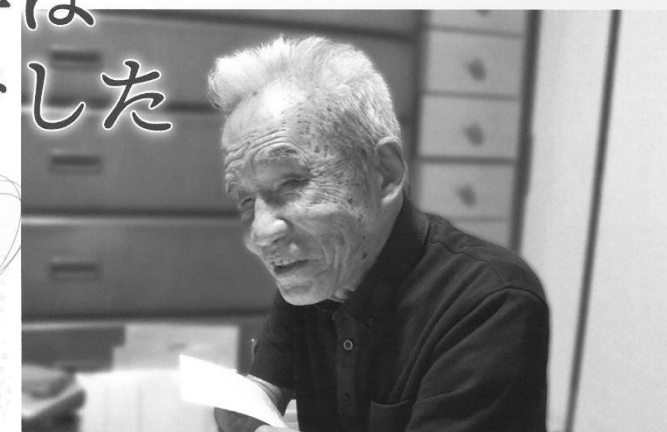
ふじの たかあき

藤野 高明さん

元大阪市立盲学校教諭
第37回NHK障害福祉賞最優秀賞受賞

1938年福岡生まれ。

7歳の時、不発弾の爆発によって弟を失い、自身は両目と両手を奪われる。地元の盲学校への入学を断られ、20歳で大阪市立盲学校中学部に編入。32歳で教員資格を取り、大阪市立盲学校に1972年から2002年まで勤務。



大阪の教育の集い2021 全体会

9月25日(土)13:30~

四條畷市民総合センター大ホール